

2018 年度 インフルエンザワクチン接種にあたって(説明書)

インフルエンザ予防接種予診票を記載前にお読み下さい。

【インフルエンザ予防接種について】

今シーズンのインフルエンザ予防注射は、季節性インフルエンザ A 型 2 株と季節性インフルエンザ B 型 2 株の計 4 種類の混合ワクチンとなっています。

インフルエンザワクチンの有効性は健康者のインフルエンザ発病割合が 70～90%減少の報告があります。発病を抑える以外に、症状を軽減したり合併症を予防したりする効果もありますのでワクチン接種をお勧めいたします。ただ感染防止に対しては効果が保証されるものではありませんので予防接種をされても手洗い等の感染防止に努めてください。

副反応

インフルエンザワクチンは極めて稀ではありますが、重篤な副作用も起り得ます。ショック、アナフィラキシー様症状、急性散在性脳脊髄炎、ギランバレー症候群等も重大な副反応として報告されます。多くは局所反応(発赤、腫脹、疼痛など) 全身反応(発熱、悪寒、頭痛、倦怠感、嘔吐) ですが通常 2～3 日で消失します。

【インフルエンザ予防接種の時期と回数について】

インフルエンザの予防接種の最も効果が期待できる期間は注射後 2 週間から 3～4 ヶ月ですので、流行時期(12 月～2 月)を考えて、10 月下旬から 12 月上旬に接種されることをおすすめします。13 歳以上の方は 1 回接種とします。免疫疾患等ある方は医師の判断により 2 回接種する場合があります。

インフルエンザワクチンを接種する前に、生ワクチンを接種した方は、通常 27 日以上の間隔を、不活化ワクチンの接種を受けた方は、通常 6 日以上の間隔をそれぞれあけてインフルエンザワクチンを受けてください。

【接種ができない方】

- 1) 明らかに熱のある方
- 2) 重篤な疾患にかかっている方
- 3) 過去にインフルエンザワクチン接種をうけてアナフィラキシーを起こした方
- 4) 予防接種を行うことが不適当な状態であると医師が判断した方

【予防接種を受けるに際し、医師とよく相談しなければならない人】

次のいずれかに該当する人は健康状態や体質等を担当医師に伝えよく相談した上で接種をおこなってください。

- 1) 心臓病、呼吸器疾患の病気(気管支喘息を含む)、腎臓病、肝臓病、血液の病気、発育障害等の基礎疾患を有する方
- 2) 予防接種を受けた後に、2日以内に発熱、発疹、蕁麻疹などのアレルギー症状を疑う異常がみられた方
- 3) 今までにけいれんを起こしたことがある方
- 4) 過去に免疫不全の診断がなされている方及び近親者に先天性免疫不全症の方がおられる方
- 5) 本ワクチンの成分又は鶏卵、鶏肉、その他鶏由来のもので皮膚に発疹がでたり、体に異常をきたすなどのアレルギー反応を起こすおそれのある方

インフルエンザワクチンを受けたあと 15 分間は、急な副反応が起きることがあります。接種後 15 分は様子観察のため当クリニック内でお過ごしください。

ワクチン接種当日は過激な運動、飲酒は避け接種部位を清潔に保ち接種後は体調管理をおこなってください。また局所反応、体調の変化、高熱、けいれん等の異常があれば速やかに医師の診察を受けてください。